

報 告 書

平成30年度

* 事 業 報 告

* 財 務 諸 表

一般財団法人 千代田健康開発事業団

〒101-0043

東京都千代田区神田富山町9番地 神田東邦センタービル

TEL 03-5296-3351 FAX 03-5296-3352

ホームページ <http://www.chiyoda-kenko.jp>

事業報告

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

事業概況	2
I 社会厚生事業	3
1. 平成30年度「社会厚生事業助成金制度」の運営	3
2. 地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛	4
3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業	4
II 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」	5
1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取組み	5
2. 入居者満足度の維持・向上	7
3. 人材育成の取組み	9
4. 安定経営に向けての新規入居促進	10
5. 介護サービスの品質及び満足度向上	12
III 診療所運営事業：「財団附属診療所ラビドールクリニック」	16
1. 診療状況及び収支の改善	16
2. 地域での活動	16
3. 「ラビドール御宿」との、医療と介護のチームケア能力の向上	17
4. 職員の知識、技能のレベルアップ	17
5. 「ラビドール御宿」入居者検診実施状況	17
IV 理事会、評議員会に関する事項	18

平成30年度 事業報告

〔平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで〕

事業概況

一般財団法人千代田健康開発事業団は、事業母体(株)日立ビルシステムの支援を受け、長期安定経営の源である資産形成に取り組み、一定の成果を上げることができた。

社会厚生事業の保健活動助成は、応募数が伸び悩んでおり、大都市圏の保健所はほとんど応募が無いため、都市部の保健所に訪問し意見交換を実施した結果、当面の諸問題に対する対応が最優先であり、応募は難しいということが判明した。この状況を踏まえ、次年度の目標達成に向け、具体的な施策に取り組む。

地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛は、財団職員の大会出場やパンフレットにホーム広告を掲載、なでしこリーグ2部で活躍している鴨川市の女子サッカーチームの後援など地元地域との連携強化を図った。

県行政機関には、千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会の委員、千葉県社会福祉協議会、千葉県介護保険関連団体協議会は評議員として参画し、県行政との協力を実施した。

有料老人ホーム運営事業は、(公社)全国有料老人ホーム協会の総会、全国地域連絡協議会幹事長会に出席、全国介護付きホーム協会の総会など今年度も両団体との連携を密にし、業界関係者との繋がりをこれまで以上に強固にした。2025年問題が近づいている今、全国的に高齢者施設は拡大傾向であり、介護スタッフの確保に外国人人材に頼らざるを得ない法人も増えている中、落ち着きのある安定した職員のサービス提供によって、ラビドール御宿の運営は順調に推移し、南房総の恵まれた環境をベースにリゾートホームという独自性を生かし、生涯ケアシステムを実現している。

診療所運営事業は、地域医療への貢献とラビドール御宿への医療サポートを継続して実施した。

地域医療においては、地元の御宿町(高齢化率約50%)で良質な高齢者医療の提供に努めた。また、御宿町国民健康保険運営協議会、御宿町認知症初期集中支援チーム等での活動も継続した。

ラビドール御宿では入居者の高齢化が進んでおり、365日24時間体制のサポートを堅持すると共に、外来診療・入院診療・健康診断・救急医療・ケア的対応等で包括的な医療を実践した。

以上

I 社会厚生事業

1. 平成30年度「社会厚生事業助成金制度」の運営

昭和29年に創設した社会厚生事業助成金制度であるが、昨年と同様に「保健活動助成」のみを実施した。なお、助成制度発足以来の助成団体数及び助成金累計額は下記の通りである。

項目	平成30年度		発足以来の累計額	
	団体数	助成金額(万円)	団体数	助成金額(万円)
医学研究助成	—	—	1,667	128,745
保健活動助成	22	440	849	17,280
合計	22	440	2,516	146,025

(1) 第22回「保健活動助成」の実施

①応募内容

- (A) 応募期間：平成30年6月初旬～8月末日
- (B) 活動テーマ：地域保健活動の推進において、高齢者や成人に対する医療・介護に関し顕著な実績を上げている保健師（個人またはグループ）の活動
- (C) 応募要件：都道府県・市・区の保健所長または市町村所管部門長の推薦を受けること
- (D) 助成団体数：35団体以内
- (E) 助成金額：1団体につき20万円
- (F) 後援：厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会

②チヨダ地域保健推進賞の状況

平成30年度も全国各地から応募を頂戴し、理事会にて選考の結果22名（グループ）が受賞され、創設以来、延べ849名（グループ）の方々が受賞している。

今回、応募数を増加にむけ応募要領を市区町村の担当部署へ直接郵送したが、残念ながら昨年より応募数が減少したため、応募がない東京都の保健所に訪問し実態を把握した。来年は、その訪問結果を踏まえ、大都市への応募要領は、保健所の担当部署に直接郵送するとともに、市・区役所の高齢者介護の担当部署にも直接郵送する。

ご後援を賜っている厚生労働省・全国保健所長会・全国保健師長会をはじめ、全国各地の保健所長、都道府県、市区町村の保健福祉関係部門長の皆様のご支援、ご協力に対し深く感謝を申し上げます。

③表彰の実施

表彰は、経費節減と安全面を考慮し、平成30年11月に表彰状を入賞者（グループ）に送付し、報奨金（20万円）を入賞者（グループ）の指定銀行へ送金した。

④保健活動成果報告集の発行

平成31年3月に平成30年度（第22回）「保健活動成果報告集」を発行し関係者に配布した。

2. 地域社会及び健康に寄与する活動・団体への協賛

平成30年度も、地元夷隅地域を中心に4ヶ所で協賛、支援し、実施状況は下記の通りである。

(1) 実施状況

①「第33回全日本学生ライフセービング選手権大会」へ協賛

9月22日(土)、23日(日)に御宿中央海岸で全日本学生ライフセービング選手権大会が開催され、協賛企業として開会式に出席した。年々参加する大学も増え、全国から46チーム、633名の大学生が参加した。大会初日は悪天候であったが、2日目は天候も回復して、競技も予定通り無事終了することができた。出場者及び関係者に配布された大会パンフレットに広告掲載を行った。

②「第11回いすみ健康マラソン大会(増田明美杯)」へ協賛

12月1日(土)、2日(日)にいすみ健康マラソン大会が開催され、協賛企業として開会式に出席した。この大会は全国ランニング大会100撰に選ばれ、毎年約5,000名のランナーが参加している。当財団の職員及び家族も第1回大会から参加しており、大会当日は、天候にも恵まれ、職員が10kmに3名出場した。出場者及び関係者に配布された大会パンフレットに広告掲載を行った。

③「認知症サポート医講演会」へ協賛

2月5日(火)に御宿町役場で当財団附属診療所(ラビドールクリニック)の深山所長による認知症の講演会が御宿町主催で開催された。千葉県認知症地域医療支援事業として平成26年から開始し、今年度が最終として総まとめの講演が行われ、御宿町民22名の方が参加した。当財団より協賛品として参加者全員に健康体操タオル等を配布した。

④「オルカ鴨川FC」へ協賛

ラビドール御宿の協力医療機関である亀田総合病院が協力している女子サッカーチーム「オルカ鴨川FC」に引き続き協賛した。今年度は、チリ代表他10名の補強を行ったが、対戦成績は、18戦8勝6敗4分(4位)で、なでしこリーグ1部への昇格にはならなかった。来年度は、昇格を図るべく、国内選手5名の補強を行っている。また、オルカ公式サイトへ「ラビドール御宿」を掲載した。

3. 地域社会住民に対する健康相談、健診事業

財団附属診療所(ラビドールクリニック)で行っている地域住民に対する健康相談、健診の実施を支援した。平成30年度実施した健康相談、健診協力は下記のとおりであり、

- (1) 御宿町特定健康診査・高齢者健診への協力。
- (2) インフルエンザワクチン予防接種・肺炎球菌ワクチン予防接種への協力。
- (3) 夷隅郡市介護認定審査会委員。
- (4) 御宿町教育支援委員会委員。
- (5) 御宿町国民健康保険運営協議会委員。
- (6) 御宿町健康増進・食育・自殺対策委員会委員(平成30年度に新設)。
- (7) 認知症サポート医(御宿町での講演活動及び認知症初期集中支援チームへの参加)。
- (8) 地域での産業医活動(千葉県水産情報通信センターの嘱託産業医)。
- (9) 医師会活動。

等を通じて、地域社会に貢献した。

Ⅱ 有料老人ホーム運営事業：「ラビドール御宿」

平成30年度に施行された第7期介護保険法改正では、「自立支援・重度化防止」「介護医療院の創設」「利用者負担割合の見直し（2割の方の内、高所得者は3割）」が主な改定内容であり、特定施設入居者生活介護施設であるラビドール御宿への給付金の影響は無く、介護職員の社会的評価を目的とした介護職員処遇改善交付金の引き上げ等により微増（0.2%～0.5%）となった。

一方、シニアマンション・サービス付き高齢者向け住宅を含む高齢者施設の増築は依然右肩上がりの状況は留まらず大手デベロッパーにより南房総地区においても大型高齢者施設の建設が始められている。

ラビドール御宿は「入居時自立リゾート型ホーム・医療・介護・看取り・確かな経験と実績」の特徴を新聞や雑誌等、幅広く展開したことにより、11組16名の新規入居者を迎え入れ安定経営へ繋がられた。

平成30年度においては新卒者2名を採用し導入研修や介護技術指導、マナー研修により、入居者から頼られる職員として育成させる事が出来た。しかしながら、少子化が進む御宿地域において労働力確保は必須であり、従前の近隣高校・大学からの紹介以外に施策を講じていかなければならない。

併せて、労働災害及び健康障害の防止を目的とした「安全衛生委員会」においては、職場内定期巡視を始めストレスチェック・定期健康診断等を産業医である同財団診療所長指導の下、3年目を終えた。

入居者へ対しては、第2回目の廊下部壁面・窓枠再塗装を実施し、居住における整備に努めた。

また、生活の潤いと引きこもり防止としてのイベントも「楽しさと安全」をテーマに実施した。加えて、アスレチックジムを利用した介護予防諸施策の実施と居室並びにケアセンターで介護を受けられる方へ対しての日常生活支援・24時間見守り等を継続した。

平成30年度においても次に挙げる具体的な取り組みを実施し、順調に運営することが出来た。

1. 事業基盤の健全性・安全性・効率性の取組み

(1) 財務体質の強化と会計管理の改善

- ・見学者ニーズを捉えた企画見学会のDMの発送や雑誌、新聞掲載を継続すると共に「全日本学生ライフセービング選手権大会協賛広告」「いすみ健康マラソン協賛広告」掲載の他、ゴルフ場や近隣業者へのパンフレットの設置依頼等、広範囲な取り組みを展開し、11組16名を迎え入れることができた。一方、退去者は15組18名であったが、今後もシニアニーズに合わせた募集活動を精力的に実施し、財務体質の強化を図っていく。
- ・建物・設備に対して長期修繕計画に基づき、次の(2)に掲げる項目を実施した。
- ・単年度予算のチェック&フォローを毎月の経営会議で行い、予算内収束に努め、予算外支出においては決裁書をもって実施した。加えて、検討事項であった診療所との委託契約の改定の検証を行い、次年度においても再改定を行う事とした。
- ・昨年度のラビドール御宿に引き続き(株)日立ビルシステムによる会計監査を診療所会計において受審し、会計帳簿の他現金・切手・薬剤等の管理における指導を受け、是正した。
- ・固定資産の確認を実施し、既廃棄物の経理処理を実施した。

(2) 建物・設備の更新

- ・長期修繕計画及び改修指導等により次の建物・機器の更新を行った。

ア. 廊下、壁面及び窓枠再塗装	イ. PS内給水管漏水補修工事
ウ. 大浴場脱衣室へエアコンの設置	エ. ペタンク場の新設
オ. 厨房用スチームコンベクション	カ. 厨房用電気ウォーマーの更新
キ. 通院用軽自動車更新	ク. マイクロバスの更新
ケ. 診療所待合室の長椅子	コ. ラビドール墓苑第7基新設
サ. 消防設備更新工事（蓄電池交換、非常照明器具交換、消火器更新、誘導灯バッテリー交換）	

(3) 適正人員と人事制度の見直し

- ・要介護認定者数に対する介護職員の適正配置に努めた。
- ・「育児・介護休業法」に伴う育児休業取得者3名が復職し、新たに3名が育時休暇を取得した。
- ・労働基準法に準拠した「職員健康診断（定期・夜勤者）並びにストレスチェック」を継続した。
- ・「安全衛生委員会」における職場巡視において、安全で働きやすい職場環境維持に努めた。

(4) 介護保険制度

- ・職員配置状況やサービス内容、改正に伴う保険点数や個人負担に留意し、誤りの無い請求を継続した。
- ・従来からの介護職員処遇改善加算の申請・報告手続きも法令に基づき千葉県に行った。

(5) リスクマネジメント

各リスクに対し、管理の強化に努めた。

- ・「データ流出のリスク」対策として、個人情報保護法に基づく勉強会により重要性の認識を深めると共に職員のマイナンバーにおいて適正な保管を行った。
併せて、不適切動画の拡散防止（バイトテロ）についての勉強会を行った。
- ・「食品衛生のリスク」対策として、衛生管理基準の遵守、定期社内検査、食材の安全仕入管理（トレーサビリティ）、自己管理の強化（食堂担当業者の罹病時の報告徹底）を継続して、食中毒事故防止の徹底を図った。また、夷隅保健所指導による献立表への脂質の表示を行った。
- ・「感染症リスク」対策として、夷隅感染症情報の活用と同財団診療所との共同委員会の活動を実施した。
平成30年度においては、御宿・夷隅地域においてインフルエンザが記録的に流行し、入居者2名、職員19名が罹患した。入居者へは居室配膳により蔓延防止を図り、職員へ対しては自宅療養（解熱後2日まで）を徹底した。また、ノロウイルスに対しては、入居者へ衛生講座を開催すると共に職員へは各部ミーティング内にて発生時における対応や入居者療養中における蔓延防止策を周知した。加えて食堂担当業者とも共同でダイニングルームでの嘔吐を想定した実地研修を行った。
- ・「広告表示物」作成時においては、（公社）全国有料老人ホーム協会の他、日経新聞・婦人画報社等の指導要領の遵守に加えて、同協会によるリーガルチェックの受審を励行し、景品表示法への対応を行った。
- ・「自然災害へのリスク」対策として、入居者参加の火災時避難訓練を各棟対象として4回へと増加させ、延べ53名の参加により火災発生時における意識向上を図った。
新たな取り組みとして、「防災講習」と「起震車体験」を行い、災害時の意識向上に努めた。
- ・「介護事故へのリスク」対策として、安全管理体制を強化すると共にインシデント（ヒヤリハット）の報告厳守と再発防止に努めた。
- ・「安全装置・機器の機能維持」対策として、緊急通報装置・自動火災通報装置の各居室への定期立入検査を行い、安全性の維持に努めた。

- ・「交通事故への取り組み」としては、春・秋の交通安全週間や夏季・年末年始における交通量増加時期等、注意喚起を定期的に行い安全運転への意識維持に努めたが、1件（通勤時）の交通事故が発生し、再発防止に努めた。
- ・居室内での転倒等の早期発見対策である喫食状況やメールボックス・館内利用の確認を徹底した。

2. 入居者満足度の維持・向上

(1) 生活サポートの充実

- ・親しみのある雰囲気を維持し、フロント職員・介護職員その他全職員が「笑顔と挨拶・マナー」を励行し、接遇の向上に努めた。
- ・入居者からの申し出に対しては、迅速な対応と実施後の確認を励行した。
- ・売店商品においてはアピール商品（花粉症予防・熱中症予防・防災グッズ・防寒グッズ）を売店前に陳列する等、サービス維持と売上の微増に繋げた。
- ・入居者の居室へ特殊詐欺と思われるダイレクトコールがあったが、館内放送と配布物にて対応し被害の発生は無かった。
- ・入居時の引っ越しサポートとご逝去における遺族サポートを継続した。
- ・「分かり易い情報源」としての『掲示板と手書きのA型看板』を継続し、情報が滞らない対応とイラストを加え、入居者への関心を高めた。
- ・身元引受人へ対し、ラビドール誌、暑中見舞い、年賀状等の送付に加え、適宜定期連絡を実施した。
- ・各種同好会並びに個人発表会に対しては、ポスター作成のお手伝いや諸準備などのサポートを行った。
- ・同好会活性化を図るため、職員主導による「写経の会」「ゴルフ練習会」を発足した。
- ・2ヶ月半に及ぶ長期工事となった「廊下、壁面及び窓枠再塗装」における、化学物質過敏の方へ事前に個別の説明を行った。（臭気による身体への影響が出た方の発生は無かった。）

(2) イベント企画

- ・春夏秋冬の4大イベント（春の花祭り、納涼祭、文化祭、クリスマス会）を軸に、クラシックコンサートやタンゴコンサート、小唄・講談などのラビドールホールを活用したイベントに加え、バスツアーや回数を増加したお買い物ツアーによる外部へのイベントも定期的で開催した。
屋外で行われる「納涼祭」は、ラビドール始まって以来、初めて台風の影響を受け急遽ダイニングルームで開催した。
- ・大きなイベントの他、「サロン遊々」や「珈琲館アンシャンテ」を始め、お茶会、映画観賞会等、様々な趣向に合わせたイベントを実施した。また、「夕餉とカラオケを楽しむ会」も定期イベントとして開催した。
- ・大きなイベント、小さなイベントを通し、「楽しみと引きこもり防止」に努めた。

【実施イベント一覧】

開催月	イベント名	開催月	イベント名
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・庭園お花見会 (73名) ・お花見ツアー (11名) ・ジャズコンサート (40名+17名) ・夕餉とカラオケを楽しむ会 (12名) ・親睦パークゴルフ会 (10名) ・端午の節句飾り 	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・半日お買い物ツアー (16名) ・第6回ゴルフ大会 (12名) ・パークゴルフ会 (7名) ・寿会 (9名) ・童謡コンサート (45名+7名) ・ハロウィン飾り付け ・文化祭展示の部
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・亀田病院での講習会 (18名) ・親睦パークゴルフ会 (10名) ・体力測定 (47名) ・半日お買い物ツアー (29名) ・防災講習会と起震車体験 (28名) ・母の日のカーネーション進呈 ・野点 (43名) ・菖蒲湯 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭発表の部 (53名+13名) ・黒沼ユリ子コンサート (38名+24名) ・文化祭芸術鑑賞会 (小唄と講談 31名) ・秋のパークゴルフ大会 (10名) ・夕餉とカラオケを楽しむ会 (9名) ・三井住友銀行遺言セミナー (5名)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・バイリンとピラのコンサート (43名+32名) ・あおば展 (出展者7名) ・小旅行 (土気方面 23名) ・寿会 (15名) ・半日お買い物ツアー (23名) ・父の日の黄色いバラ進呈 ・七夕飾り 	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・紅葉バスツアー (24名) ・体力測定 (62名) ・亀田病院医師による講演会 (39名) ・クリスマス忘年会 (100名+1名) ・餅つき会 (65名+2名) ・暮れのお買い物ツアー (25名) ・クリスマスラシックコンサート (53名+5名) ・クリスマス飾り ・柚子湯 ・正月飾り
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・コーラス倶楽部交流会 (43名+11名) ・経理小勉強会 (12名) ・衛生栄養講座 (31名) ・納涼祭 (113名) 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣会 (31名+4名) ・初詣成田山ツアー (30名) ・新春お茶会 (45名) ・タンゴコンサート (51名+3名) ・節分飾り
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーコンサート (30名) ・半日お買い物ツアー (22名) 	2月	<ul style="list-style-type: none"> ・節分豆配布 ・雛飾り ・半日お買い物ツアー (22名)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・十五夜飾り 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・スプリングコンサート (59名) ・ロビー花飾り ・雛あられ配布 ・蓬餅と甘酒のご賞味会 (70名+3名) ・LAVIE☆FESTA (130名+1名) ・親睦パークゴルフ会 (8名)

※ (●●名+●●名) = (入居者+ (家族+近隣居住者))

(3) 食事の満足度の向上

- ・喫食数の状況は、全ての食事で微減した。

	平成30年度		平成29年度		増減	
	総食数	1日平均	総食数	1日平均	総食数	1日平均
朝食	35,457食	97食	38,222食	105食	2,765食減	8食減
昼食	37,078食	101食	39,873食	109食	2,795食減	8食減
夕食	43,448食	119食	45,221食	124食	1,773食減	5食減

- ・予約無しでも食事が出来る固定食（そば・うどん・カレーライス）の継続提供を行った。
- ・刺身、ステーキなどの特別価格帯でのパーティー料理の提供とその維持に努めた。
- ・味覚を考慮した誤嚥防止食、高齢者向け機能性食品の提供を行った。
- ・食事改善に取り組み「新規メニュー」や「シェフのおすすめメニュー」を導入し、食数増に努めた。
- ・四季に合わせたテーブルクロス交換や飾り付けにより、清潔感のある楽しい空間造りに努めた。

(4) 住環境の満足度向上

- ・定期的な敷地内巡回により、次の小修繕を行い住環境の維持・整備に努めた。

ア. レッドロビン（生垣）の補植	イ. 診療所駐車場枠の塗装
------------------	---------------

(5) 介護予防対策

- ・介護予防を目的としたアスレチックジムの利用者増を図るべく、配布物やラビドール誌への掲載を行った。今後も体力維持・健康維持のサポートとして利用者増に努めて行く。
- ・体力を可視化するため、体力測定を年2回（内、1回は骨密度測定を組み入れ）実施した。加えて、運動反応測定を導入し、実施した。

【アスレチックジム・プール年度別延べ利用者数】

区分	平成30年度	平成29年度	増減
アスレチックジム	6,871名	8,100名	1,229名減
プール	1,250名	1,251名	1名減
※アスレチックジム：1,229名の減少 新規入居者の利用はあるも、1人当たりの利用回数が減少したため、延べ利用者数も減少した。			
※プール：1名の減少 継続利用者により利用数は維持出来た。			

3. 人材育成の取組み

(1) OJTによる働きがいのある職場づくりの構築

- ・平成30年度は、介護サービス部へ2名の新卒者を採用出来た。他の先輩職員同様、入社1ヶ月間はアスレチックジム・フロントなど、ラビドール全体の業務研修を行った。その後、1名は日勤集中業務期間を経て交代勤務にも組み入れ、居室介護職業務を段階的に習熟させた。1名は日勤業務と共に夜勤業務も含めケアセンター介護職業務を習熟させた。
- ・介護職員の育成としては、ケースカンファレンスを中心とした社内研修会で知識、技術の向上を図ると共に、安心できる職場環境の構築によりロイヤリティーの向上に努めた。また、コミュニケーション手法や身体ケアを反復訓練して基本的な介護技術の完全修得とスキルアップを図った。

- ・家族的介護の視点に立った「寄り添うケア・心のこもったケア」について実践指導を行い、安心感のある介護サービスの提供に努めた。
- ・介護サービス部においてはアクティビティ担当や教育担当など、各担当制により個々の目標達成と責任を明確化して業務達成意識の向上を図った。

(2) OFF-JTによるスキルアップ

- ・全国有料老人ホーム協会主催「東日本事例発表研修会」にも継続参加・発表し、高い評価を得た。
発表テーマ：【衛生環境改善の取り組み ～オゾン水の活用と実践～】
- ・その他、次の研修会へ参加し、知識・技術の向上に努めた。

No.	研修名	No.	研修名
1	全国有料老人ホーム協会 基礎研修	14	社協 苦情対応研修
2	全国有料老人ホーム協会 チームワーク研修	15	社協 身体拘束防止研修
3	全国有料老人ホーム協会 苦情対応研修	16	中央労働災害防止協会 腰痛予防講座
4	全国有料老人ホーム協会 景表法研修	17	夷隅保健所 給食施設災害研修
5	全国有料老人ホーム協会 相談員研修	18	夷隅保健所 レジオネラ予防研修
6	全国有料老人ホーム協会 ケアカフェ	19	御宿町 終活セミナー講演会
7	千葉県 食中毒・感染症予防研修	20	亀田病院 応急手当講座
8	千葉県 介護保険集団指導	21	アイデム 中堅職員研修
9	労働基準監督署 労災及び労務管理	22	アイデム 社会人力アップ研修
10	社協 アサーション研修	23	ランゲート 雇用管理責任者研修
11	社協 傾聴基礎研修	24	安全運転協会 安全運転管理者講習会
12	社協 防災力強化研修	25	ヘルス&フィットネスジャパン見学
13	社協 成年後見制度研修		

(3) 提案制度の推進

- ・平成30年度においては、各部より82件の応募があり9名が表彰された。

一等：「薬剤管理方法の検討」

4. 安定経営に向けての新規入居促進

(1) 新規入居促進の取り組み

- ・ソフト・ハード両面での入居者満足度向上を基盤とし入居検討者のニーズに添った企画見学会の実施により、前年度に比べ見学者組数が微増した。
- ・近隣施設（亀田総合病院・ミレーニア勝浦・勝浦東急GC・西武プロパティーズ・御宿霊園）へのパンフレットの設置により周知活動を継続、並びに近隣住民の高齢化に伴う個別入居相談を実施した。
- ・全国有料老人ホーム協会会員、協会過去セミナー参加者宛DMにて見学会の配信、登録者を対象としたホーム定期情報や見学会の配信により、入居検討者の見学動員数が増加した。
- ・ホームページの有効活用とし、各媒体におけるホームページ検索の促しとトップページでの見学会情報の定期更新を実施し、見学動員数を増加した。
- ・新たな取り組みとして、新聞空枠広告を計画的に実施し、多くの反響と見学者を迎え入れる事が出来た。
- ・販売居室及び館内外の設備・備品の老朽化感への対応としてグレード感と品格を保つための住環境整備におけるリフォーム管理を実施した。

- ・入居検討者とのコミュニケーションによる信頼関係構築と入居への課題解決により入居待機者の拡充に繋げた。
- ・入居待機者並びに登録者の個別情報スクリーニングにより空室発生時における的確な入居アプローチを実施し、新規入居を促進した。
- ・入居検討者の東京での相談窓口として「入居相談東京分室」を周知徹底し相談機能を向上した。

(2) ラビドール御宿の社会的評価・信頼度向上への取組み

- ・ホームページにおいて最新のホーム情報を積極的に公開すると共に、3ヶ月ごとの重要事項説明書の更新並びに財団ホームページでの財務状況の公表等ホーム運営の透明性・健全性による企業信頼度の向上に努めた。
- ・社会的価値のある事業活動を展開する財団が運営する有料老人ホームとして、「日本ライフセービング協会」「いすみ健康マラソン」広報誌等への掲載を実施した。
- ・新規入居者の入居后面談を実施し、入居直後の生活不安への対応を各部と協働、個別的満足度の向上を図り不満退去の防止に努めた。

【見学状況】

年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度
見学者数	115組184名	110組207名	120組187名

【新聞・雑誌掲載状況】

日経新聞（夕刊）広告掲載	5月7日、10月17日
朝日新聞全面カラー広告掲載	5月17日、8月16日、 8月23日、12月13日
週刊朝日MOOK掲載	9月14日
婦人画報	10月1日
ジパング倶楽部	12月25日
ダイヤモンドセレクト	1月31日
ちいき新聞（千葉市）	3月8日
タカシマヤ通販誌	3月11日
千葉県医師会報	定期掲載6回／年
学士会会報	定期掲載6回／年
全日本学生ライフセービング選手権大会協賛広告	9月22日
いすみ健康マラソン大会協賛広告	12月2日

【入居状況】

項目	平成30年度	平成29年度	平成28年度
新規入居者数	11組16名	12組16名	8組13名
退去者数 （内、死亡退去）	15組18名 （13組15名）	13組18名 （13組18名）	13組17名 （11組15名）
年度末入居者数	179室236名	183室238名	184室240名

【企業等見学状況】

実施月	来館企業	来館者数
8月	千葉県町村会政務調査会	24名
9月	ひたちなか総合病院、(株)日立ライフ	6名
11月	三井不動産レジデンシャル(株)	5名
1月	亀田総合病院	4名
3月	惣道設計工房、中国企業	8名
平成30年度 合計5組47名		

【取材】

3月	家庭画報特別企画取材	2名
----	------------	----

【企画見学】

4月	ラビドール御宿安心プラン日帰り見学	無し
6月	施設長が語る高齢者住宅の賢い選び方	1組1名
7月	夏の体験入居(登録者限定)	無し
8月	2年間で入居の準備『安心入居スタイル』	3組5名
9月	特別見学会『亀田総合病院』視察	4組5名
10月	有料老人ホームのイメージを超えた『シニアの理想的な生活環境』見学会	3組4名
12月	ジパング倶楽部プレミアム見学会	4組7名
1月	快適な房総特急で行く 早春の見学会	3組3名
2月	ラビドール御宿と行く「御宿めぐり」	無し
3月	亀田総合病院見学会	7組10名
	タカシマヤ会員プレミアム内覧会	2組3名

5. 介護サービスの品質及び満足度向上

(1) 介護予防諸施策の充実

体力・筋力維持の状況、サルコペニアの気づきとして、5月と12月に健康づくりの指標となる体力測定を実施した。また、12月の体力測定では、給食委託業者(株)グリーンハウスの協力を得て骨密度測定を例年通り実施すると共に、マクセル(株)より提案のあった運動反応測定を実施する事が出来た。今年度は延べ109名(前年度116名)が参加し、基礎体力・バランス力・転倒予防に繋がる取り組みへの意識が高まった。

居室グループでは、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)予防の為に介護予防プログラムを生活サービス部(運動指導員)と共同で、毎週水曜日に「元気づくり体操」として実施した。

プログラムでは、筋力の維持に留まらず「認知症予防」にも力を入れ、文字や漢字の並べ替え・軽スポーツ・コグニサイズ(運動と思考を織り交ぜた体操)を行い、認知症予防にも目を向ける事が出来た。

ケアセンターでは、「みんなの体操」に加え、「いきいき体操」のプログラムを実施した。

「いきいき体操」は、歌・ゲーム・クイズ・運動・昔話(回想法)等、レクリエーションの多くの要素を取り入れた活動を実施する事で、「心も体もいきいき」の目標を具現化するプログラムとなった。

咀嚼力・嚥下力の維持・向上のための生活リハビリは、今年度「パタカラ体操」をメインに、食事前の時間に加え、午前の「みんなの体操」時にも嚥下機能訓練を実施しており、飲食時の誤嚥リスク低減と咀嚼力の維持への取り組みを継続することができた。

更に自立者向けにも「ヨガ体操」「音楽療法」「サロン遊々」等、自由参加型の認知症予防プログラムを継続できた。

【介護予防運動実施状況】

実施月	平成30年度		平成29年度	
	実施回数	延べ参加人数	実施回数	延べ参加人数
4月	26回	281名	22回	209名
5月	32回	345名	23回	254名
6月	26回	267名	23回	276名
7月	22回	247名	21回	248名
8月	22回	253名	23回	247名
9月	25回	250名	22回	237名
10月	28回	319名	22回	225名
11月	26回	292名	23回	234名
12月	20回	231名	25回	284名
1月	28回	342名	21回	235名
2月	27回	346名	21回	244名
3月	29回	397名	21回	227名
合計	311回	3,570名	267回	2,920名

【アクティビティ実施状況】

実施月	平成30年度		平成29年度	
	実施回数	延べ参加人数	実施回数	延べ参加人数
4月	28回	292名	29回	179名
5月	29回	273名	31回	235名
6月	29回	220名	44回	271名
7月	29回	234名	31回	154名
8月	28回	313名	32回	130名
9月	27回	252名	32回	152名
10月	31回	250名	63回	189名
11月	30回	274名	95回	296名
12月	30回	276名	79回	329名
1月	29回	378名	76回	403名
2月	28回	345名	62回	349名
3月	30回	329名	78回	407名
合計	348回	3,436名	652回	3,094名

(2) 暮らしやすい生活・介護サービスの充実

暮らしやすい生活、入居者のニーズに基づいた介護サービスの取り組みとして、「ラビドール式フットケア」や「お買い物ツアー」等を中心に生活支援プログラムを実施した。

外出プログラムである「スマイルお買い物ツアー」では、隣接のいすみ市や大多喜町のスーパーやホームセンターまでの送迎・付き添いを実施すると共に、入居者から勝浦のスーパーにも足を伸ばしたいとの要望も受け、行き先を3カ所に増やし85名（昨年度94名）の参加を得た。

お買い物ツアーでは、スーパー内での転倒事故（膝の怪我）の事例を基に、職員引率者を1名から2名に増員しているが、新たに送迎車の運転を乗務職に依頼し3名体制での安全な外出プログラムに進化している。

居室グループでは「スイーツ会」をDVD鑑賞や座談会と組み合わせた新たな取り組みにおいて、参加者より座談会「長寿に向けての秘訣：情報交換」のリクエストを得ることができた。

ケアセンターグループでは、ホームイベントの「納涼祭」「クリスマス会」「音楽コンサート」等の参加に加え、ケアセンター独自のイベントである「秋祭り」「クリスマスコンサート」に多くの参加者を迎える事ができ、入居者・家族・職員との交流も活発化された。更には、10月に入居者の家族による「童謡コンサート」の提案をいただき、ラビドールホールで本格的なコンサートが開催され、介護を受けておられる入居者が主体の華やかなイベントとなった。

入居者の身体状況の変化としては、脊椎圧迫骨折の発生事例が継続しており、協力医療機関への通院支援が多くなっている。但し、専門医の治療方針に基づく経皮的椎体形成術と骨粗鬆症の治療薬により、自立生活に戻られたケースも多く、質の高いQOLを取り戻す事例が確認されている。

更に通院支援では、ラビドールクリニック眼科医師と近隣の眼科医師との連携により、通院及び治療時間の短縮と質の高い白内障治療サポートが提供できる体制が整った。

入居者2名のインフルエンザ罹患者へ対し、発症時におけるラビドールクリニックへの受診を促し、療養時における居室配膳や巡回の励行をする事により、蔓延防止が図られた。

【フットケア実績（平成20年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年	19名	22名	23名	17名	17名	22名	18名	19名	18名	22名	22名	22名	241名
平成29年	25名	19名	20名	20名	17名	19名	23名	18名	15名	18名	12名	16名	222名
平成28年	21名	20名	25名	19名	21名	23名	23名	21名	17名	22名	17名	20名	249名

【珈琲館実績（平成20年6月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年	26名	24名	24名	19名	24名	23名	23名	30名	19名	27名	28名	32名	299名
平成29年	22名	25名	25名	28名	23名	25名	25名	24名	31名	25名	21名	27名	301名
平成28年	24名	21名	25名	21名	24名	19名	24名	28名	15名	中止	28名	中止	229名

【サロン遊々実績（平成24年7月より毎月開催）】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年	8名	8名	8名	6名	7名	6名	6名	6名	7名	6名	5名	6名	79名
平成29年	13名	7名	8名	11名	8名	9名	7名	4名	9名	8名	12名	12名	108名
平成28年	13名	8名	11名	8名	11名	11名	12名	7名	10名	11名	9名	13名	124名

(3) 安心・安全・プライバシー遵守

自立者への介護情報サポートとして、「第9回介護サービス説明会」を開催した。テーマは「居室介護サービスとケアセンター介護サービス」の連携方法を中心に説明し、自立時から要介護状態に至るまでの切れ目のない介護サービス提供を理解いただく機会となった。

更に年2回開催の介護懇談会では、介護保険制度の仕組みや公的サービス（高額医療・介護負担限度基準額等）の説明と、申請手続きの支援について詳しく説明し、入居者の心配事に対し職員がいつでも相談出来る体制の案内を行った。

また、介護サービス部内のカンファレンス・ミーティングでは、身体拘束適正化事業の周知や職員研修、入居者の変化に応じた危険予知・予測対応等、入居者並びに家族の信頼を得る為の勉強会を実施した。

【インシデント・アクシデント件数】

区分	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
インシデント	106件	95件	86件	36件
アクシデント	9件	24件	19件	7件
合計	115件	119件	105件	43件
(内転倒件数)	(92件)	(82件)	(66件)	(30件)

(4) 医療との連携強化

同財団診療所の連携・支援を受けながら、共同で11名の看取りに携わる事が出来た。看取りについては緩和ケアを含む看取りケアが必要な状況があり、当事者の希望を汲み取りながら看取りケア計画を立案し、ラビドールクリニック医師を中心とする医療チームとラビドール御宿スタッフが連携し、急速に体調とメンタルが変化する入居者のケアを行うことが出来た。この看取りケアについては経験と情報収集、チーム内連携が重要であり、ラビドール御宿はラビドールクリニック常勤医師を交えた「最良の看取りケア」を目指し、目標を定めて技能向上に努めて行きたいと考えている。

(5) 介護の人材育成

例年と同様に、社会福祉関連における国家資格取得サポートを実施した。

介護福祉士3名（受験者5名）が国家資格を取得した。

Ⅲ 診療所運営事業：「財団附属診療所 ラビドールクリニック」

平成30年度も、地域医療への貢献と共に、「ラビドール御宿」への365日24時間の医療サポートを継続することが出来た。

地域医療においては、地元である御宿町（高齢化率約50%）で高齢者医療の最前線を担っている。また、前年度と同様に「御宿町教育支援委員会」「御宿町国民健康保険運営協議会」「夷隅郡市介護認定審査会」と、今年度新設の「御宿町健康増進・食育・自殺対策委員会」の委員を務めた。認知症サポート医の活動としては、「認知症サポート医講演会」（年1回）の講師を務め、3年目となる「御宿町認知症初期集中支援チーム」での活動も継続した。

「ラビドール御宿」では入居者の高齢化が進んでおり、外来診療・入院診療・健康診断のそれぞれにおいて高齢者に適した対応を充実させてきている。看取りケアでは、最近3年間では亡くなられた方の約7割がラビドールでの看取りとなっている（今年度は11名）。

今年度においても、財団附属診療所としてコンプライアンスを守り、良質な医療の提供に努め、地域住民並びにラビドール御宿入居者の健康サポートに貢献すべく努力した。

1. 診療状況及び収支の改善

外来診療では6年目となる常勤医2名体制が定着し、「外来患者数」は安定し、「外来管理加算」「特定疾患療養管理料」の件数では3年連続前年度より微増している。

ケアセンターでの医療的な需要の増加（看取りケアの増加等）に伴い、訪問診療回数は前年同様に高い値となっている。一方で、看護師のマンパワー不足が続き、入院患者数は昨年度より減少している。

【診療所患者数等】

年度	外来			入院		
	延患者数	診療日数	一日平均	延患者数	診療日数	一日平均
平成30年度	8,854人	239日	37.05人	35人	365日	0.10人
平成29年度	8,883人	239日	37.17人	165人	365日	0.45人
平成28年度	8,855人	237日	37.36人	333人	365日	0.91人
平成27年度	8,795人	238日	36.95人	244人	366日	0.67人

- ・ケアセンターへの訪問診療（月平均）：69回（昨年度72回）
- ・入院での看取りケア：2名対応（昨年度9名）
- ・インフルエンザワクチン予防接種：492名（昨年度509名）
- ・肺炎球菌ワクチン予防接種：59名（昨年度70名）
- ・介護保険主治医意見書：74通（昨年度73通）
- ・介護保険居宅療養管理指導（月平均）：28名（昨年度28名）

2. 地域での活動

- (1) 所長が2月に御宿町「認知症サポート医講演会」にて講演活動を行った（千葉県認知症地域医療支援事業）。22名の参加者があった。
- (2) 看護師1名が夷隅郡市「介護認定審査会」の委員として通年で活動した。
- (3) 医師1名が「御宿町教育支援委員会」の委員として活動した（8年目）。
- (4) 所長が「御宿町国民健康保険運営協議会」の委員として活動した（4年目）。
- (5) 所長が認知症サポート医として「御宿町認知症初期集中支援チーム」の委員として活動した（3年目）。

- (6) 「御宿町特定健康診査・高齢者健診」に健診医として5回協力した（26年目）。
- (7) 医師1名が今年度新設の「御宿町健康増進・食育・自殺対策委員会」の委員として活動した。
- (8) 所長が「ラビドール御宿」の産業医として、毎月の「安全衛生委員会」に参加し、職場巡視、ストレスチェック、健康診断の所見作成等を実施した（3年目）。
また、医師会からの要請により御宿町内の「千葉県水産情報通信センター」の嘱託産業医となり、職場巡視等を実施している（3年目）。

3. 「ラビドール御宿」との、医療と介護のチームケア能力の向上

- (1) ケアセンターへの医療サポートを実施した。
 - ・ケアセンター看護業務に対してホーム看護チームに協力して対応した。
 - ・胃瘻栄養、経鼻胃管栄養、膀胱留置カテーテル等に協力を行った。
 - ・褥瘡予防ではハイリスク者に個別対応（体圧測定、適切な除圧器具の選択など）を行い、治療も共同で実施した。
 - ・ホームとの「感染対策共同委員会」を年2回実施し、インフルエンザウイルス・ノロウイルス等につきエビデンスに基づいた施設内感染防止に努めた。
 - ・「看取りケア」に対して、ホームと連携して入居者の個別なニーズに対応し、11名をクリニックとホームにて看取らせていただいた。
- (2) 毎月1回のホームでのサービス担当者会議に医師・看護師が全回出席し、要介護・要支援認定者等に対するの情報共有に努めた。
- (3) 前年度同様に多くの服薬自己管理困難者（要介護・要支援認定者等、月平均66名）に対して、ホームと連携し薬剤師を中心にサポートを行った。

4. 職員の知識、技能のレベルアップ

- (1) 「ユマニチュード研修会」「創傷研修会」「褥瘡対応研修会」等の、4回の研修会に5名の看護師が参加した。
千葉県医師会主催「保険医講習会」「不眠症治療セミナー」、産業医大主催「産業医学実践研修会」等に所長が参加した。
- (2) 「安全管理研修会」を年2回実施した。「インシデント・アクシデント報告」を分析し、対策を図った。
（「インシデント・アクシデント報告」年間3件、重大な事故はゼロ。）
- (3) 「院内感染対策研修会」を年2回実施した。
- (4) 看護師3名が認知症ケア専門士（日本認知症ケア学会）の資格を持ち、スタッフ全員で認知症の知識についてのアップデートに努めた。

5. 「ラビドール御宿」入居者検診実施状況

入居者に対する検診を次の通り行った。

(1) 腹部超音波検診	5月～ 6月	93名受診（昨年度99名受診）
(2) 総合健診	9月～12月	134名受診（昨年度127名受診） 要介護者等に、介護サポート付き健診を実施した。
(3) 胃X線検診	3月～ 5月	昨年度同様に今年度も寒冷期を避けて実施中 （昨年度20名受診）

※検診でのインシデント・アクシデントの予防に努め、事故ゼロを達成してきている。

IV 理事会、評議員会に関する事項

平成30年度第1回理事会

- (1) 日時：平成30年 5月 9日（水）16時～17時30分
- (2) 場所：KKRホテル東京
- (3) 議題：第1号議案 平成29年度事業報告及び決算の承認に関する件
第2号議案 平成30年度定時評議員会の開催に関する件

平成30年度定時評議員会

- (1) 日時：平成30年 5月24日（木）10時～11時30分
- (2) 場所：お茶の水ホテルジュラク
- (3) 議題：第1号議案 平成29年度事業報告に関する件
第2号議案 平成29年度決算報告の承認に関する件

平成30年度第2回理事会

- (1) 日時：平成30年10月16日（火）16時～17時45分
- (2) 場所：KKRホテル東京
- (3) 議題：第1号議案 平成30年度（第22回）「チョダ地域保健推進賞」選考に関する件
第2号議案 就業規則「定年」の延長に関する件

平成30年度第3回理事会

- (1) 日時：平成31年 3月20日（水）16時～17時20分
- (2) 場所：KKRホテル東京
- (3) 議題：第1号議案 2019年度事業計画及び収支予算に関する件

平成30年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年5月
一般財団法人 千代田健康開発事業団

平成30年度 財務諸表

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

*貸借対照表	… 21
*正味財産増減計算書	… 22
*財務諸表に対する注記	… 26
*附属明細書	… 30

貸借対照表
平成31年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	224,002,568	272,603,731	△ 48,601,163
未収入金	85,893,601	69,426,187	16,467,414
未収消費税	0	5,882,400	△ 5,882,400
棚卸資産	4,352,160	4,279,361	72,799
前払費用	3,375,764	3,491,874	△ 116,110
繰延税金資産	7,435,800	7,331,500	104,300
その他	485,760	416,454	69,306
流動資産 合計	325,545,653	363,431,507	△ 37,885,854
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産運用積立金	0	0	0
基本財産投資有価証券	0	0	0
基本財産 合計	0	0	0
(2) 特定資産			
特定資産有価証券	1,000,000,000	1,000,000,000	0
建物	15,883,272	16,749,864	△ 866,592
建物付属設備	1	2,188,689	△ 2,188,688
構築物	16,375,837	17,058,163	△ 682,326
車両運搬具	9,990,317	1,275,307	8,715,010
什器備品	4,183,153	6,255,941	△ 2,072,788
土地	15,400,000	15,400,000	0
役員退職慰労引当資産	500,000	500,000	0
固定資産購入積立資産	537,038,334	318,390,477	218,647,857
霊園購入積立資産	61,625,460	63,693,455	△ 2,067,995
特定資産 合計	1,660,996,374	1,441,511,896	219,484,478
(3) その他固定資産			
建物	1,023,386,394	1,076,012,134	△ 52,625,740
建物付属設備	94,134,022	111,213,352	△ 17,079,330
構築物	43,062,610	40,015,070	3,047,540
車両運搬具	1	2	△ 1
什器備品	105,460,439	109,489,704	△ 4,029,265
リース資産	3,886,470	13,213,998	△ 9,327,528
土地	825,037,210	822,037,210	3,000,000
電話加入権	2,996,308	2,996,308	0
ソフトウェア	3,881,060	9,632,592	△ 5,751,532
敷金	3,504,950	3,504,950	0
預託金	0	0	0
投資有価証券	1,032,316,500	917,546,500	114,770,000
電気通信施設利用権	461,348	498,255	△ 36,907
その他固定資産合計	3,138,127,312	3,106,160,075	31,967,237
固定資産 合計	4,799,123,686	4,547,671,971	251,451,715
資産 合計	5,124,669,339	4,911,103,478	213,565,861
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	15,736,726	0	15,736,726
未払費用	45,014,314	52,174,506	△ 7,160,192
未払法人税等	140,000	140,000	0
未払消費税	11,570,800	0	11,570,800
賞与引当金	34,950,050	34,466,950	483,100
前受金	16,167,800	16,629,160	△ 461,360
預り金	2,037,343	1,922,822	114,521
仮受金	0	0	0
流動負債 合計	125,617,033	105,333,438	20,283,595
2. 固定負債			
入居預り金	1,612,703,250	1,587,246,750	25,456,500
介護費預り金	265,803,207	260,729,635	5,073,572
入居者長期未払金	59,807,475	72,847,105	△ 13,039,630
入居者長期預り金	863,149,539	917,356,701	△ 54,207,162
介護費長期預り金	100,307,256	105,539,033	△ 5,231,777
リース債務	3,886,470	13,213,998	△ 9,327,528
役員退職慰労引当金	500,000	500,000	0
固定負債 合計	2,906,157,197	2,957,433,222	△ 51,276,025
負債 合計	3,031,774,230	3,062,766,660	△ 30,992,430
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
(うち基本財産への充当額)	1,752,941,986	1,494,431,133	258,510,853
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(1,566,956,038)	(1,344,842,529)	(222,113,509)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	339,953,123	353,905,685	△ 13,952,562
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(93,540,336)	(96,169,367)	2,629,031
正味財産合計	2,092,895,109	1,848,336,818	244,558,291
負債及び正味財産合計	5,124,669,339	4,911,103,478	213,565,861

正味財産増減計算書
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益			
特定資産受取利息	21,436,342	21,102,394	333,948
特定資産売却益	0	0	0
特定資産運用益計	21,436,342	21,102,394	333,948
② 事業収益			
地域住民健診収益	0	0	0
老人ホーム事業収益			
入居預り金償却益	379,254,696	355,425,090	23,829,606
管理費収益	195,602,040	197,846,280	△ 2,244,240
食費収益	89,021,113	93,602,834	△ 4,581,721
料飲収益	14,472,616	12,692,822	1,779,794
売店収益	16,887,133	15,071,545	1,815,588
施設負担金収益	14,150,338	15,028,799	△ 878,461
施設利用料収益	1,399,590	1,516,320	△ 116,730
その他収益	0	0	0
老人ホーム事業収益計	710,787,526	691,183,690	19,603,836
医療事業収益			
医療外来収益	79,732,921	82,669,128	△ 2,936,207
医療入院収益	650,446	2,153,051	△ 1,502,605
医療室料収益	270,000	1,012,500	△ 742,500
介護保険収益	5,363,744	5,554,316	△ 190,572
医療その他収益	931,600	1,017,440	△ 85,840
医療事業収益計	86,948,711	92,406,435	△ 5,457,724
介護事業収益			
介護費預り金償却益	58,651,501	54,676,813	3,974,688
介護保険収益	132,434,741	133,205,874	△ 771,133
介護事業収益計	191,086,242	187,882,687	3,203,555
事業収益計	988,822,479	971,472,812	17,349,667
③ 受取寄付金			
受取寄付金振替額	0	0	0
④ 雑収益			
受取利息	10,673,588	10,660,718	12,870
投資有価証券売却益	0	0	0
投資有価証券償還益	0	2,844,000	△ 2,844,000
投資有価証券評価益	6,604,000	615,500	5,988,500
永代使用料収益	7,628,080	1,549,680	6,078,400
受取地代	0	93,548	△ 93,548
雑収益	7,756,739	6,847,575	909,164
雑収益計	32,662,407	22,611,021	10,051,386
経常収益計	1,042,921,228	1,015,186,227	27,735,001
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	3,200,000	3,200,000	0
給料手当	290,110,269	282,883,489	7,226,780
賞与引当金繰入	33,266,050	32,793,750	472,300
法定福利費	49,497,256	53,145,576	△ 3,648,320
退職年金保険料	7,135,160	6,937,240	197,920
通勤費	5,988,805	5,867,710	121,095
福利厚生費	1,978,734	1,818,734	160,000
被服費	680,919	663,434	17,485
研修費	289,916	293,066	△ 3,150
会議費	358,879	382,999	△ 24,120
旅費交通費	207,700	177,047	30,653
通信運搬費	2,578,059	3,096,702	△ 518,643
什器備品費	2,191,428	1,927,923	263,505
消耗品費	6,385,950	6,193,008	192,942
修繕費	53,213,922	95,973,959	△ 42,760,037
印刷費	3,720,367	3,542,881	177,486
図書費	285,844	278,695	7,149
燃料費	13,187,083	12,796,425	390,658
電気料	24,885,358	22,696,497	2,188,861
水道料	7,028,224	7,970,558	△ 942,334
保守費	4,425,624	4,763,664	△ 338,040
賃借料	2,407,725	8,087,131	△ 5,679,406
リース料	1,126,272	1,247,362	△ 121,090
業務委託費	188,842,875	188,269,160	573,715
清掃費	1,981,739	1,840,849	140,890
保険料	2,386,677	2,416,517	△ 29,840
交際費	424,706	323,480	101,226
諸会費	4,122,800	3,975,800	147,000
租税公課	40,048,400	39,545,285	503,115
自動車費	3,094,386	2,644,014	450,372
施設負担金	3,920,508	3,920,508	0
販売費	10,906,889	15,204,294	△ 4,297,405
広告宣伝費	14,368,286	9,429,275	4,939,011
教養娯楽費	3,405,275	3,119,317	285,958
支払手数料	3,494,090	3,438,304	55,786
売店仕入費	14,766,786	13,106,678	1,660,108
医薬品仕入費	34,006,226	33,791,669	214,557
介護負担金	7,898,159	6,686,893	1,211,266
研究助成費	4,400,000	5,800,000	△ 1,400,000
応募関係費	0	0	0

正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
選考関係費	0	0	0
贈呈式関係費	0	0	0
成果報告関係費	0	0	0
現地開催費	0	0	0
出張関係費	0	0	0
委託手数料	0	0	0
建物減価償却費	67,921,672	66,999,591	922,081
リース資産減価償却費	9,327,528	10,065,833	△ 738,305
建物付属設減価償却費	19,428,938	20,886,785	△ 1,457,847
構築物減価償却費	4,865,386	5,132,651	△ 267,265
車両運搬具減価償却費	1,866,379	2,367,463	△ 501,084
什器備品減価償却費	35,032,158	31,758,758	3,273,400
電気通信施設減価償却費	36,907	36,907	0
ソフトウェア減価償却費	6,718,132	8,293,860	△ 1,575,728
雑費	536,062	700,717	△ 164,655
事業費計	997,950,508	1,036,492,458	△ 38,541,950
②管理費			
役員報酬	6,400,000	6,400,000	0
給料手当	9,788,491	9,720,716	67,775
賞与引当金繰入	1,684,000	1,673,200	10,800
退職金	737,000	0	737,000
法定福利費	2,464,026	2,788,733	△ 324,707
退職年金保険料	108,000	108,000	0
通勤費	779,120	900,540	△ 121,420
福利厚生費	57,396	47,750	9,646
研修費	0	0	0
会議費	515,727	532,458	△ 16,731
旅費交通費	467,443	449,906	17,537
通信運搬費	926,650	924,271	2,379
什器備品費	14,880	67,809	△ 52,929
消耗品費	67,991	79,253	△ 11,262
修繕費	0	0	0
印刷費	276,487	272,926	3,561
図書費	60,100	63,634	△ 3,534
電気料	310,061	396,974	△ 86,913
水道料	23,910	23,281	629
賃借料	4,509,987	4,509,987	0
リース料	181,440	181,440	0
業務委託費	3,395,920	4,123,964	△ 728,044
清掃費	174,960	174,960	0
交際費	198,158	158,042	40,116
保険料	6,700	6,680	20
諸会費	12,000	301,880	△ 289,880
租税公課	3,825,853	3,664,498	161,355
支払手数料	23,460	23,190	270
特定資産償還差損	0	0	0
特定資産売却損	0	0	0
雑費	34,658	35,208	△ 550
管理費計	37,044,418	37,629,300	△ 584,882
経常費用計	1,034,994,926	1,074,121,758	△ 39,126,832
当期経常増減額	7,926,302	△ 58,935,531	66,861,833
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
車両運搬具売却益	581,389	0	581,389
経常外収益計	581,389	0	581,389
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	125,052	15,863	109,189
車両運搬具売却損	1	0	1
投資有価証券評価損	13,723,000	365,000	13,358,000
投資有価証券売却損	8,576,500	100,000	8,476,500
経常外費用計	22,424,553	480,863	21,943,690
当期経常外増減額	△ 21,843,164	△ 480,863	△ 21,362,301
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 13,916,862	△ 59,416,394	45,499,532
法人税、住民税及び事業税	140,000	140,000	0
法人税等調整額	△ 104,300	219,700	△ 324,000
当期一般正味財産増減額	△ 13,952,562	△ 59,776,094	45,823,532
一般正味財産期首残高	353,905,685	413,681,779	△ 59,776,094
一般正味財産期末残高	339,953,123	353,905,685	△ 13,952,562
II 指定正味財産増減の部			
①特定資産運用損益			
特定資産投資有価証券評価損益	21,712,500	7,173,000	14,539,500
②受取寄付金			
受取寄付金	254,060,294	12,440,308	241,619,986
③受取利息			
受取利息	2,738,059	0	2,738,059
④支払寄付金			
支払寄付金	△ 20,000,000	0	△ 20,000,000
⑤一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	258,510,853	19,613,308	238,897,545
指定正味財産期首残高	1,494,431,133	1,474,817,825	19,613,308
指定正味財産期末残高	1,752,941,986	1,494,431,133	258,510,853
III 正味財産期末残高	2,092,895,109	1,848,336,818	244,558,291

正味財産増減計算書内訳表
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科目	ホーム会計	診療所会計	社会厚生会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
① 特定資産運用益					
特定資産受取利息	0	0	0	21,436,342	21,436,342
特定資産売却益	0	0	0	0	0
特定資産運用益計	0	0	0	21,436,342	21,436,342
② 事業収益					
地域住民健診収益	0	0	0	0	0
老人ホーム事業収益					
入居預り金償却益	379,254,696	0	0	0	379,254,696
管理費収益	195,602,040	0	0	0	195,602,040
食費収益	89,021,113	0	0	0	89,021,113
料飲収益	14,472,616	0	0	0	14,472,616
売店収益	16,887,133	0	0	0	16,887,133
施設負担金収益	14,150,338	0	0	0	14,150,338
施設利用料収益	1,399,590	0	0	0	1,399,590
その他収益	0	0	0	0	0
老人ホーム事業収益計	710,787,526	0	0	0	710,787,526
医療事業収益					
医療外来収益	0	79,732,921	0	0	79,732,921
医療入院収益	0	650,446	0	0	650,446
医療室料収益	0	270,000	0	0	270,000
介護保険収益	0	5,363,744	0	0	5,363,744
医療その他収益	0	931,600	0	0	931,600
医療事業収益計	0	86,948,711	0	0	86,948,711
介護事業収益					
介護費預り金償却益	58,651,501	0	0	0	58,651,501
介護保険収益	132,434,741	0	0	0	132,434,741
介護事業収益計	191,086,242	0	0	0	191,086,242
事業収益計	901,873,768	86,948,711	0	0	988,822,479
③ 受取寄付金					
受取寄付金振替額	0	0	0	0	0
④ 雑収益					
受取利息	7,302,848	72	0	3,370,668	10,673,588
投資有価証券売却益	0	0	0	0	0
投資有価証券償還益	0	0	0	0	0
投資有価証券評価益	0	0	0	6,604,000	6,604,000
永代使用料収益	7,628,080	0	0	0	7,628,080
受取地代	0	0	0	0	0
雑収益	7,602,234	154,505	0	0	7,756,739
雑収益計	22,533,162	154,577	0	9,974,668	32,662,407
経常収益計	924,406,930	87,103,288	0	31,411,010	1,042,921,228
(2) 経常費用					
① 事業費					
役員報酬	0	0	3,200,000	0	3,200,000
給料手当	241,661,770	47,197,370	1,251,129	0	290,110,269
賞与引当金繰入	29,355,769	3,695,081	215,200	0	33,266,050
法定福利費	41,912,072	6,939,798	645,386	0	49,497,256
退職年金保険料	5,993,058	1,142,102	0	0	7,135,160
通勤費	5,497,902	490,903	0	0	5,988,805
福利厚生費	1,763,307	215,427	0	0	1,978,734
被服費	611,976	68,943	0	0	680,919
研修費	258,118	31,798	0	0	289,916
会議費	344,687	14,192	0	0	358,879
旅費交通費	128,010	79,690	0	0	207,700
通信運搬費	2,402,785	150,637	24,637	0	2,578,059
什器備品費	2,068,203	123,225	0	0	2,191,428
消耗品費	4,794,227	1,591,723	0	0	6,385,950
修繕費	53,194,084	19,838	0	0	53,213,922
印刷費	3,030,895	266,144	423,328	0	3,720,367
図書費	173,374	112,470	0	0	285,844
燃料費	13,187,083	0	0	0	13,187,083
電気料	23,529,519	1,261,473	94,366	0	24,885,358
水道料	6,994,189	26,758	7,277	0	7,028,224
保守費	4,228,461	197,163	0	0	4,425,624
賃借料	1,035,120	0	1,372,605	0	2,407,725
リース料	628,102	498,170	0	0	1,126,272
業務委託費	179,011,049	8,444,356	1,387,470	0	188,842,875
清掃費	1,927,654	54,085	0	0	1,981,739
保険料	2,298,950	87,727	0	0	2,386,677
交際費	328,169	96,537	0	0	424,706
諸会費	3,850,633	272,167	0	0	4,122,800
租税公課	40,048,400	0	0	0	40,048,400
自動車費	3,094,386	0	0	0	3,094,386
施設負担金	3,480,739	439,769	0	0	3,920,508
販売費	10,906,889	0	0	0	10,906,889
広告宣伝費	14,368,286	0	0	0	14,368,286
教養娯楽費	3,405,275	0	0	0	3,405,275
支払手数料	3,442,435	39,127	12,528	0	3,494,090
売店仕入費	14,766,786	0	0	0	14,766,786
医薬品仕入費	15,079,031	18,927,195	0	0	34,006,226
介護負担金	7,898,159	0	0	0	7,898,159
研究助成費	0	0	4,400,000	0	4,400,000
応募関係費	0	0	0	0	0

正味財産増減計算書内訳表
平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科目	ホーム会計	診療所会計	社会厚生会計	法人会計	合計
選考関係費	0	0	0	0	0
贈呈式関係費	0	0	0	0	0
成果報告関係費	0	0	0	0	0
現地開催費	0	0	0	0	0
出張関係費	0	0	0	0	0
委託手数料	0	0	0	0	0
建物減価償却費	66,253,955	1,667,717	0	0	67,921,672
リース資産減価償却費	9,098,505	229,023	0	0	9,327,528
建物付属設減価償却費	18,951,890	477,048	0	0	19,428,938
構築物減価償却費	4,745,924	119,462	0	0	4,865,386
車両運搬具減価償却費	1,820,553	45,826	0	0	1,866,379
什器備品減価償却費	34,171,995	860,163	0	0	35,032,158
電気通信施設減価償却費	36,001	906	0	0	36,907
ソフトウェア減価償却費	6,553,179	164,953	0	0	6,718,132
雑費	455,926	80,136	0	0	536,062
事業費計	888,787,480	96,129,102	13,033,926	0	997,950,508
②管理費					
役員報酬	4,800,000	0	0	1,600,000	6,400,000
給料手当	5,519,860	0	0	4,268,631	9,788,491
賞与引当金繰入	949,600	0	0	734,400	1,684,000
退職金	737,000	0	0	0	737,000
法定福利費	1,554,707	0	0	909,319	2,464,026
退職年金保険料	0	0	0	108,000	108,000
通勤費	389,560	0	0	389,560	779,120
福利厚生費	18,620	0	0	38,776	57,396
研修費	0	0	0	0	0
会議費	107,746	0	0	407,981	515,727
旅費交通費	467,443	0	0	0	467,443
通信運搬費	721,816	0	0	204,834	926,650
什器備品費	0	0	0	14,880	14,880
消耗品費	634	0	0	67,357	67,991
修繕費	0	0	0	0	0
印刷費	0	0	0	276,487	276,487
図書費	1,300	0	0	58,800	60,100
電気料	202,414	0	0	107,647	310,061
水道料	15,593	0	0	8,317	23,910
賃借料	2,941,296	0	0	1,568,691	4,509,987
リース料	0	0	0	181,440	181,440
業務委託費	3,285,976	0	0	109,944	3,395,920
清掃費	174,960	0	0	0	174,960
交際費	136,598	0	0	61,560	198,158
保険料	0	0	0	6,700	6,700
諸会費	12,000	0	0	0	12,000
租税公課	0	0	0	3,825,853	3,825,853
支払手数料	19,086	0	0	4,374	23,460
特定資産償還差損	0	0	0	0	0
特定資産売却損	0	0	0	0	0
雑費	0	0	0	34,658	34,658
管理費計	22,056,209	0	0	14,988,209	37,044,418
経常費用計	910,843,689	96,129,102	13,033,926	14,988,209	1,034,994,926
当期経常増減額	13,563,241	△ 9,025,814	△ 13,033,926	16,422,801	7,926,302
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
車両運搬具売却益	581,389	0	0	0	581,389
経常外収益計	581,389	0	0	0	581,389
(2) 経常外費用					
什器備品除却損	125,052	0	0	0	125,052
車両運搬具売却損	1	0	0	0	1
投資有価証券評価損	13,723,000	0	0	0	13,723,000
投資有価証券売却損	8,576,500	0	0	0	8,576,500
経常外費用計	22,424,553	0	0	0	22,424,553
当期経常外増減額	△ 21,843,164	0	0	0	△ 21,843,164
他会計振替額	△ 16,838,017	7,234,655	13,032,626	△ 3,429,264	0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 25,117,940	△ 1,791,159	△ 1,300	12,993,537	△ 13,916,862
法人税、住民税及び事業税	140,000	0	0	0	140,000
法人税等調整額	△ 104,300	0	0	0	△ 104,300
当期一般正味財産増減額	△ 25,153,640	△ 1,791,159	△ 1,300	12,993,537	△ 13,952,562
一般正味財産期首残高	△ 26,875,123	120,203,863	△ 213,900	260,790,845	353,905,685
一般正味財産期末残高	△ 52,028,763	118,412,704	△ 215,200	273,784,382	339,953,123
II 指定正味財産増減の部					
① 特定資産運用損益					
特定資産投資有価証券評価損益	△ 8,146,500	0	0	29,859,000	21,712,500
② 受取寄付金					
受取寄付金	254,060,294	0	0	0	254,060,294
③ 受取利息					
受取利息	2,738,059	0	0	0	2,738,059
④ 支払寄付金					
支払寄付金	△ 20,000,000	0	0	0	△ 20,000,000
⑤ 一般正味財産への振替額					
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	228,651,853	0	0	29,859,000	258,510,853
指定正味財産期首残高	375,205,033	0	0	1,119,226,100	1,494,431,133
指定正味財産期末残高	603,856,886	0	0	1,149,085,100	1,752,941,986
III 正味財産期末残高	551,828,123	118,412,704	△ 215,200	1,422,869,482	2,092,895,109

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法に基づく原価法

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

原価法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(売却価額は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法

(3) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

建物、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定額法を採用している。

平成28年3月31日以前に取得した建物附属設備及び構築物、車両運搬具及び什器備品の減価償却は、法人税法に規定する法定耐用年数による定率法を採用している。

②無形固定資産

ソフトウェアの減価償却は、定額法による方法を採用している。

③リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産について、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(4) 引当金の計上基準

①賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

②退職給付引当金

職員の退職に備え、勤労者退職金共済機構の中小企業退職金共済制度を導入したため、退職給付引当金はない。

③役員退職慰労引当金

役員(非常勤を含む)の退職慰労・功労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の経理処理は、税込方式によっている。

(6) 税効果会計の適用について

税引前の当期一般正味財産増減額と法人税等の金額を合理的に期間対応させ、より適切な当期正味財産増減額を計上することを目的として税効果会計を適用している。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	備考
特定資産					
投資有価証券	1,000,000,000			1,000,000,000	
役員退職慰労引当資産	500,000			500,000	
固定資産購入積立資産	318,390,477	256,798,353	38,150,496	537,038,334	
霊園購入積立資産	63,693,455	7,628,653	9,696,648	61,625,460	
建物	16,749,864		866,592	15,883,272	
建物付属設備	2,188,689		2,188,688	1	
車両運搬具	1,275,307	10,581,390	1,866,380	9,990,317	
什器備品	6,255,941		2,072,788	4,183,153	
構築物	17,058,163		682,326	16,375,837	
土地	15,400,000			15,400,000	
合計	1,441,511,896	275,008,396	55,523,918	1,660,996,374	

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	産からの充当額	産からの充当額	する額	備考
特定資産					
投資有価証券	1,000,000,000	(1,000,000,000)	(0)	(0)	
役員退職慰労引当資産	500,000	(0)	(0)	(500,000)	
固定資産購入積立資産	537,038,334	(537,038,334)	(0)	(0)	
霊園購入積立資産	61,625,460	(0)	(61,625,460)	(0)	
建物	15,883,272	(15,883,272)	0	(0)	
建物付属設備	1	(1)	(0)	(0)	
車両運搬具	9,990,317	(9,851,278)	(139,039)	(0)	
什器備品	4,183,153	(4,183,153)	(0)	(0)	
構築物	16,375,837	(0)	(16,375,837)	(0)	
土地	15,400,000	(0)	(15,400,000)	(0)	
合計	1,660,996,374	(1,566,956,038)	(93,540,336)	(500,000)	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	備考
特定資産				
建物	25,488,000	9,604,728	15,883,272	
建物付属設備	24,990,000	24,989,999	1	
構築物	20,920,691	4,544,854	16,375,837	
車両運搬具	33,733,022	23,742,705	9,990,317	
什器備品	15,977,942	11,794,789	4,183,153	
小計	121,109,655	74,677,075	46,432,580	
その他固定資産				
建物	2,253,031,096	1,229,644,702	1,023,386,394	
建物付属設備	614,808,152	520,674,130	94,134,022	
構築物	272,374,871	229,312,261	43,062,610	
車両運搬具	7,902,782	7,902,781	1	
什器備品	395,341,263	289,880,824	105,460,439	
リース資産	88,966,896	85,080,426	3,886,470	
ソフトウェア	49,359,351	45,478,291	3,881,060	
電気通信施設利用権	738,150	276,802	461,348	
小計	3,682,522,561	2,408,250,217	1,274,272,344	
合計	3,803,632,216	2,482,927,292	1,320,704,924	

5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内容	金額	備考
(老人ホーム事業会計)		
経常収益への振替額		
減価償却費計上による振替額	0	
合計	0	

6. 税効果会計関係

(1) 繰延税金資産の主な原因別の内訳

(単位:円)

収益事業	合計	備考
賞与引当金繰入否認	7,435,800	
繰延税金資産(流動資産)	7,435,800	
投資有価証券評価益否認	△ 12,097,200	
繰越欠損金	55,339,100	
入居者長期預り金	223,707,200	
評価性引当額	△ 266,949,100	
繰延税金資産(固定資産)	0	
繰延税金資産合計	7,435,800	

(2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

(単位:円)

項目	非収益事業	収益事業	合計	備考
税引前当期一般正味財産増減額(A)	12,992,237	△ 26,909,099	△ 13,916,862	
法人税、住民税及び事業税(B)	0	140,000	140,000	
過年度法人税等(C)	0	0	0	
法人税等調整額(D)	0	△ 104,300	△ 104,300	
当期一般正味財産増減額(A)-(B)-(C)-(D)	12,992,237	△ 26,944,799	△ 13,952,562	

(3) 法人税法上の収益事業に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

当事業年度は税引前当期一般正味財産増減額がマイナスのため記載を省略する。

7. リース取引関係

(1) ファイナンス・リース取引

① 所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

その他固定資産

有料老人ホーム「ラビドール御宿」における、緊急コールシステムである。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表の注記に記載しているため、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	34,466,950	34,950,050	34,466,950	0	34,950,050
役員退職慰労引当金	500,000	0	0	0	500,000

一般財団法人
千代田健開発事業団